

— 戸建て住宅所有者の維持管理行動の推進に関する研究 —

中野迪代（岐阜女大）

【目的】持続可能な住環境の実現に向け、住宅の長寿化が重要課題になっている。住宅の寿命をのばすには適切な維持管理が必要不可欠である。本報は戸建住宅所有者の維持管理行動の一つとして、所有者自らが行うDIYによる住宅の維持管理の実情を明らかにする。

【方法】G大学住居学科の戸建持家居住の学生と父母、祖父／祖母を対象として、留置自記入または学生による聞き取りの調査を1996年7～8月に実施した。配布世帯数252、有効世帯票数221（有効回収率87.7%）、本人218票、父203票、母210票、祖父23票、祖母35票

【結果】対象住宅は在来木造80%、瓦屋根79%である。DIYで住まいの修理・改善をしたことのない世帯22.6%、よくする世帯14.9%、残りの62.4%は必要に迫られて行っていた。約9割が維持・補修を、1/4がインテリアの改装を目的に、簡単な作業で（8割強）家計の節約ができる（4割強）のでDIYをしている。今後もDIYで住まいの修理・改善を積極的にするつもり世帯が1割強、反対にすべて業者に任せる世帯が1割であった。これらの数値には核家族、世代家族による差、および家族や身内に建築関連職種関係者がいることによる影響は見られなかった。個人のDIY経験は「構造と外部17項目」では、父（87%）祖父（83%）母（43%）祖母（20%）本人（19%）、「水回り8項目」では父（93%）母（90%）祖父（65%）本人（56%）祖母（49%）、「内装24項目」では母（98%）父（98%）本人（90%）祖父（87%）祖母（80%）と高率であった。半数以上が経験有は網戸の取付／張替、雨樋の修繕、外部塗装、浴室のカビ取り、蛇口の修繕、配管内の掃除、換気扇の掃除、照明器具の取付、障子貼り、タタキ掛け・カーテンレール・柵・鍵・ドアノブや把手の取付／取替、丁番・戸車の修繕、襖貼りであった。